

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)  
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

7

帽子の色 白

関西高校

10

3	-	1
1	-	0
3	-	2
3	-	1
PS		

天候： 晴れ

帽子の色 青

四日市中央工業高校

4

審判1： 福元 寿夫

審判2： 井上 嘉隆

戦評

開催県の関西高校は優勝2回の古豪ですが、最後の優勝から40年の歳月が経っており、地元開催ということでの上位進出を狙っています。対する四日市中工は2年後のインターハイ開催に向けての強化育成段階。レベル的にも接近しているので、好ゲームが期待できる一戦です。

第1ピリオド、開始早々の四日市中工の退水攻撃を防いだ関西高校がそのまま反撃に転じて、④児島君が退水を誘発し、そこを冷静に③徳田君が決めて関西高校が先制(6:18)。続いて、四日市中工の攻撃中の反則からすぐさま⑤片山君がミドルを決めて2-0(4:46)。しかし、四日市中工もGK①村上君のシュートブロックから②村濱くんが退水を誘発、そこを④田口君が決めて1点差に詰めます(1:46)。ピリオド終盤、④児島君がインターセプトしてそこを⑤片山君が決めて(0:55)、関西高校3-1四日市中工で第1ピリオド終了。

第2ピリオド開始直後に四日市中工が退水攻撃に出ますが、うまくかみ合わずミス。そこを関西高校について主将④児島君がゴール前でペナルティを誘発、それを慎重に決めて関西高校4-1四日市中工と3点差に広げます(6:36)。ここからお互いの力量が分かったのか、見ごたえのある攻防が続きました。関西高校のシュートを四日市中工GK①村上君が好セーブを連発。対する関西高校GK①内田君が見せた退水ディフェンスでの位置取りと声。ゲームが一気に締まったのは言うまでもありません(関西高校4-1四日市中工)。

第3ピリオド開始早々の四日市中工のフローター攻撃を関西高校⑦木村君が読み切ってインターセプトし、そこを全員で攻め、⑤片山君が5mシュートを決めて突き放します(6:03)。四日市中工もすかさずエース⑥佐々木君がフローターシュートを決めますが、その後の攻撃が続きません。四日市中工②村濱君の素晴らしいシュートを関西高校GK①内田君が止めたプレーから、関西高校がカウンター攻撃に出て③徳田君が決めて(2:50)、6-3と3点差に広げたことで完全にゲームの流れが関西高校に。

第4ピリオドも四日市中工のシュートが外れたところを突いて、②伊藤君が5mシュートを決めて関西高校8-3四日市中工とさらに点差を広げました(4:24)。四日市中工も関西高校のミスを突いて①藤田君が点差を詰めますが(4:00)、関西高校はその後の攻撃をGK①内田君を含めて集中してよく守り、その後も⑦木村君(3:39)、⑧野口君が加点して(1:26)、10-4と関西高校が完勝しました。

四日市中工は前半で7本もの退水を誘発してその攻撃力の高さを見せつけましたが、それを防いだのが関西高校GK①内田君です。積極的に前に出で、四日市中工側の前線にプレッシャーをかけたことで、退水セットのエリアを広げ、結果的にシュート位置を遠ざけたり、パス距離を長くさせたりしてミスを誘い出しました。その結果、7本中1点しか与えず、しかも、その退水時のミスから関西高校側が2点を奪って優位に立てたことがこのゲームのポイントでした。

記録者

土居 陽治郎

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)  
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

8

帽子の色 白

金沢市立工業高校

14

2	-	1
5	-	2
4	-	1
3	-	2
PS		

天候： 晴れ

帽子の色 青

富山北部高校

6

審判1： 木下 晃次

審判2： 槇橋 邦広

戦評

同ブロック対決となったこのカード、地域予選では金沢工業が10-6で勝っており、北信越1位代表のプライドと雪辱を期す富山北部の意地が激突する興味ある対戦となりました。

金沢工業⑤川本君の先制点でスタート、持ち前の奪取速攻からチャンスメイクしフローター⑫宮澤君を起点にセットオフENSというパターン。富山北部は、昨年度桃太郎カップMVPのスーパールーキー⑩稲葉君が個人技でチャンスメイクするも、金沢工業の連携の効いたDFでシュートがポストをたたくことや、GK①新藤君のセービングでなかなかゴールに結びつきません。それでも1P終了間際に⑩稲葉君がフロントからゲットして1点ビハインドで2Pへ(金沢工業2-1富山北部)。

お互いの出方を認知しインターハイ初戦の緊張感が解けたところで、金沢工業が攻勢をかけます。サウスポーエース④陰田君が切れのいいシュートで2得点、キャプテン②新田君も相手アンダーウォーター時にトップ抜けなどし2得点、1年生フローター⑫宮澤君もセンターから得点し、それぞれのキャラクターが活きた躍動を見せます。富山北部も、チームとしての連携にやや難があるものの、ルーキーコンビ⑨伊井君、⑩稲葉君が得点し追いつがる展開で前半を終えました(金沢工業7-3富山北部)。

追いつきたい一心の富山北部ですが、度々のチャレンジが裏目に出てターンオーバー。逆に金沢工業得意のカウンター攻撃が決まりだし、このピリオド4-1とし7点リードで勝利が見えてきました(金沢工業11-4)。

最終ピリオドも情勢は変わらず、得点差に落ち着いた攻防を見せる金沢工業に対して、逆転を信じて一心にゴールを目指す富山北部、8分4Pフルに泳いだ疲れもあってかお互い最後の詰めに精度を欠き、点差は詰まらず金沢工業が勝利しました。

連携のとれたDFからカウンターの流れ良く展開した金沢工業は、サウスポーエース④陰田君の7得点の活躍や1年生フローター⑫宮澤君のセンタープレー、さらにGK①新藤君(2年)のファインセーブが光りました。インターハイ初優勝に向け果敢なチャレンジを期待したいところです。

富山北部は、攻撃の核となる⑩稲葉君や⑨伊井君、GK①浦野君ら1年生のチャレンジとひたむきさを、主将②日又君や③相山君らがカバーする展開となりました。フレッシュなエネルギーが連続爆発することを期待していましたが、金沢工業の落ち着いた対応に封じ込められてしまいました。若い世代が多いだけに今後の成長と可能性が感じられます。この敗戦の悔しさをばねに精進し、またインターハイチャンピオンを目指してほしいものです。

記録者

南部 健

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)  
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)  
会場：児島マリンプール

ゲームNo. 9

帽子の色 白

帽子の色 青

埼玉栄高校

15	{	4	-	2	3
	2	-	0		
	4	-	0		
	5	-	1		
	PS				

山形工業高校

天候： 快晴

審判1： 若林 和人

審判2： 伊藤 晃二

戦評

昨年度インターハイチャンピオンでリオ五輪代表の主将の志水選手を輩出した埼玉栄と、1回戦で宮崎工業を倒し勢いに乗る山形工業の対戦。実は昨年度のインターハイでも2回戦で同カードの対戦があり、激戦を制した埼玉栄がそのまま勢いに乗り優勝したという因縁の対決が始まりました。

第1ピリオドは山形工業の攻撃からスタート。一方埼玉栄は改良を加えたゾーンディフェンスを展開。山形工業は果敢に外周からシュートを放つもことごとく枠から外れ、埼玉は3連続でカウンターからの得点を重ねます。ここで流れを変えるべく、山形工業を率いる試合巧者・斎藤監督がタイムアウト。落ち着きを取り戻した山形工業はゾーンディフェンスの裏をかくフローターへのノールックパスから豪快なバックシュートで⑧斎藤君が初得点(4:23)。しかし埼玉栄は、直後のセットオフenseで③相澤君がディフェンスの前をに入りシュートを決め、なかなか流れを渡しません(4:11)。その後、山形工業は退水誘発から得意の中を狙うパターンで⑧斎藤君が得点(3:03)。その後は攻防が続く中で、ラスト30秒で埼玉栄が2名退水し、そのままピリオド終了(埼玉栄4-2山形工業)。

第2ピリオドは埼玉栄がセンターボールを取り、山形工業は退水のチャンスを生かせずスタート。開始直後にお互いに退水を誘発するも決められず、その後も埼玉栄は毎回のようにカウンターを出すもシュートミスやオフenseファールが続く、攻防が続きます。山形工業は埼玉栄のディフェンスを崩すことができず、埼玉栄の③相澤君(3:29)、⑩樋爪君(1:09)のカウンターで得点を決められ、じりじりと得点差が広がっていきました(第2ピリオド終了時、埼玉栄6-2山形工業)。

第3ピリオドは埼玉栄の退水誘発から中のプレーヤーをうまく使って③相澤君が得点(6:53)。さらに、5:27には③相澤君の豪快なフローティングのシュート、3:20に④阿保君がカウンターでシュートを決め、山形工業を一気に引き離しました。山形工業も1:54にタイムアウト取って選手を落ち着かせ、AサイドのフローティングとCサイドのクロスで埼玉栄のディフェンスを崩そうとすると、なかなか突破口を見いだせません。そのような中、キーパーが寄っていたのを見逃さなかった埼玉栄⑤後藤君がワンタッチで豪快なミドルシュートを決め、さらに得点差を広げました(埼玉栄10-2山形工業)。

なんとか、一矢報いたい山形工業はフローターの⑧斎藤君にボールを集め、ミドルシュートを放ちますが、なかなか埼玉栄のディフェンスを崩すことができませんでしたが、山形工業が退水誘発から中のポストを使い、⑩結城君が豪快にシュートを決め意地を見せました(5:16)。しかし、埼玉栄は最後まで攻撃の手を緩めることなく、カウンターを出し続けて得点を重ね試合終了(埼玉栄15-3山形工業)。

初戦ということでミスの多かった埼玉栄でしたが、オフense、ディフェンス共に安定感があり、今後の仕上がりが楽しみです。一方、昨年のリベンジを果たしたかった山形工業は埼玉栄の組織力には屈しましたが、個々のレベルにおいては力強いものがあり、将来性のある選手たちの今後が楽しみです。

記録者

柳川 洋志

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)  
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

10

帽子の色 白

秀明英光高校

18

2	-	1
6	-	1
6	-	1
4	-	1
	PS	

帽子の色 青

鹿児島南高校

4

天候： 晴れ

審判1： 福元 寿夫

審判2： 佐藤 國寛

戦評

一昨年インターハイの決勝戦で激突した両チームが2回戦で対戦します。一昨年は秀明英光が優勝の栄冠を手にしてはいますが、今回は1回戦30得点の勢いの秀明英光が勝つか、本大会初戦となる鹿児島南が一昨年の雪辱を果たすか、試合の行方が楽しみな一戦です。

第1ピリオド6:00秀明英光②土橋君のバックシュートが見事に決まり得点。負けじと鹿児島南⑤永池君が中に切り込み相手GKが出てきたところでループシュートですぐに追いつきます。すばやい動きで相手を翻弄する秀明英光は⑪川村君の中へのドライブから退水誘発、②土橋君がこれを決めます(4:27)。ここから秀明英光はカウンター気味に攻めるもののあと一歩が決まらず、鹿児島南も退水、回し込み、5mシュートなどで反撃しますが決まらず、第1ピリオド終了(秀明英光2-1鹿児島南)。

第2ピリオド鹿児島南は秀明英光からアンダーウォーターをとり、チャンスを作るもシュートは秀明英光GK①美坐君に阻まれ、逆にカウンター。これを秀明英光④鈴木君が決めて流れを引き寄せます。続けて秀明英光は退水やカウンターから連続得点を重ね、⑦田中君の3得点を含めて5連続得点(3:23)。鹿児島南は②山下君が中に切り込みシュート態勢に入ると秀明英光はたまらず上からつぶし、ペナルティファウル。これを鹿児島南⑦芝君がしっかり決め1点を返します(0:57)。この後秀明英光が1点を加えこのピリオド秀明英光6-1鹿児島南で終え、秀明英光が試合を主導権を握りました。

第3ピリオド鹿児島南⑦芝君がセンターボールをとり、中に入ってシュート。開始20秒で得点を挙げて反撃に転じますが、秀明英光は⑩コップ君が退水誘発から自ら得点し、流れを鹿児島南に渡しません。鹿児島南はディフェンス重視の少ない人数で攻め、秀明英光の少ない人数でのカウンターを阻止する作戦に。鹿児島南は攻撃人数が少なくなり攻撃時のパスの選択肢が減った上に、秀明英光の強烈なプレスでパスミスが続き、センターまでボールが通らず、そこを秀明英光は5対4や4対3の数的有利をしっかり決め、連続得点で試合を決めました(秀明英光14-3鹿児島南)。

第4ピリオドも秀明英光のカウンターが決まり、鹿児島南は④木原君のループシュートで一矢報いるものの、結局、秀明英光18-4鹿児島南の大差で試合終了。

鹿児島南も秀明英光になんとか泳ぎ負けないように、泳がせないように追いつがったのですが力及ばず初戦敗退。1回戦の勢いそのままに秀明英光が準々決勝への切符を手に入れました。今大会優勝候補の秀明英光の泳ぎをとめられるチームがあるのか、あるならどのチームか。今後の戦いも目が離せません。

記録者

金原 直樹

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)  
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

11

帽子の色 白

大垣東高校

17

2	-	1
5	-	1
5	-	1
5	-	2
	PS	

天候： 晴れ

帽子の色 青

宇都宮東高校

5

審判1: 井上 嘉隆

審判2: 潮崎 正一

戦評

昨年度の快進撃でシード権を獲得した大垣東の初戦は、関東大会で常連の前橋商を破って2回目の出場を果たし、さらに1回戦は西京に完勝した宇都宮東との県立高校対決です。宇都宮東のセンター⑥渡邊君を大垣東が、逆に大垣東のセンター④高田君を宇都宮東がどれだけ抑えられるかという同型チームの対戦。

第1ピリオドは、お互いがかっぷり四つ状態。センター位置にボールを入れ合う展開に。大垣東⑧林君のインターセプトからゴール前の④高田君が豪快に決めて大垣東が先制。その後は攻め手のない展開となりましたが、宇都宮東が②松原君のインターセプトを起点に攻め、⑤青木君が5mシュートで同点に。続けて⑤青木君がドライブから退水を誘発して攻めるもシュートが決まらず、逆にそこを大垣東が突いて④高田君が決めました(大垣東2-1宇都宮東)。

第2ピリオド早々に、宇都宮東が大垣東のシュートをGK①清水君の防御を起点に⑥渡邊君が退水を誘発し、そこを②松原君が決めて同点に追いつきますが、大垣東側が宇都宮東の特徴を完全に読み切り、早めにセンター位置にボールを集める展開に持ち込み有利にゲームを支配していきます。宇都宮東⑤大角君の5mシュートを皮切りに、連続5得点で一気に引き離しました。宇都宮東側は前線との距離が開き過ぎているところを大垣東側にインターセプトされ、決定機を連続して作られる苦しい展開となり、前半を終えて大垣東7-2宇都宮東という展開。

第3ピリオドに入っても大垣東ペースは続きます。特に、宇都宮東の右サイドへのパスを③田代君がインターセプトするプレーからセンター④高田君で決める攻撃が続き、あっという間に連続5得点。ピリオド終盤に、宇都宮東の④島崎君が退水を誘発して⑤青木君が決めてピリオド零封を免れるのがやっとでした(大垣東12-3宇都宮東)。

第4ピリオドも大垣東④高田君のセンター攻撃は止まりません。宇都宮東も2人で守るのですが、強いフットワークで生み出される力強いシュート。宇都宮東GK①清水君も負けじと積極的に前に出てセンター攻撃に対応するのですが、持ちこたえることができずにこのピリオドも5失点。しかし、宇都宮東の攻撃は、フローター攻撃だけでなく、トップからのドライブ攻撃などの幅が広がり、4:33④島崎君がリレーシュートを見事に決めたり、退水攻撃も②松原君が角度のないところから決めたりするなど2点を返しました(大垣東17-5宇都宮東)。

序盤こそもたついた大垣東でしたが、センター④高田君らの攻撃力はシード校らしいチームとして次が楽しみです。攻防の転換時のスピードに課題があり、これからの上位対戦でどこまで改善できるか。また久しぶりのインターハイ出場となった宇都宮東は、攻撃の幅をもう少し広げることで全国大会の常連になれるものと思われます。

記録者

土居 陽治郎

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)  
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

12

帽子の色 白

向陽高校

5

2	-	0
1	-	6
1	-	2
1	-	5
	PS	

天候： 晴れ

帽子の色 青

明治大学中野高校

13

審判1： 榎橋 邦広

審判2： 若林 和人

戦評

39年前の岡山インターハイで初優勝を飾った明大中野が復活の場として臨んだ対戦相手が、強豪の鳥羽を撃破した和歌山の向陽ということで熱戦が期待されます。明大中野チームはシュート決定率が今一つというところを向陽が突いていけるかどうか、また明大中野側からすると、向陽のレフティ④木村君らの1年生をどこまで封じることができるかがポイントです。

第1ピリオド、明大中野側の怒涛の攻撃、シュートをことごとく防いだ向陽が数少ないチャンスを活かして⑥河合君が退水を誘発し、自身で決めて向陽が先制(3:03)。その後も向陽の退水ディフェンスもGK①大林君がよく守って②田甫君が果敢に飛び出し、ペナルティを誘発して自身で決めて2-0とリードしました。このピリオド、明大中野は退水時のシュートを含めて8本放ちましたが、決めることができず、そこを向陽に鋭く突かれる展開に。向陽としてはある意味で作戦通りの展開となりました。

第2ピリオドになると、向陽側にパスミスが目立つようになりました。明大中野の当たりが強いために、パスを自由に投げられなくなり、しかもニアサイドはパスコースを防がれているために、どうしてもロングパスを多用せざるを得ない状況に追い込まれ、そこを明大中野の④増田君にインターセプトされ、そのまま④増田君がシュートを決めるという展開が続きました。このピリオドで④増田君が3得点。それに絡んでセンターの⑥岩崎君が本領発揮して一気に6点を奪ってゲームの主導権を掌握しました(明大中野6-3向陽)。

第3ピリオドも向陽は思うような展開に持ち込めません。明大中野のシュートミスや向陽のインターセプトなどでカウンター攻撃の回数は③東君を中心に増えましたが、前線まで泳ぎ込んだ②田甫君などと後方との距離が開き過ぎ、どうしてもロングパスになったところを明大中野側に奪われる展開で劣勢に。ロングパスのミスから、3対2のカウンターで6:09に⑪眞板君に決められたパターンがその典型。向陽⑤山根君のインターセプトからのカウンター攻撃で③東が決めたのが精一杯の反撃(明大中野8-4向陽)。

第4ピリオド、向陽②田甫君が退水を誘発し、そこをレフティ④木村君がきれいに決めましたがその後が続きません。最後はお互いにミスが多く、やや大味なゲーム展開になりましたが、確実に決めたのが明大中野で、センター⑥岩崎君をはじめ、④増田君、⑩熊谷郁君などが連続得点して突き放しました。結局、明大中野13-5向陽という結果となりました。

敗れた向陽は1回戦で攻撃の起点となっていた④木村君が徹底マークされ、思うような展開に持ち込めませんでした。明大中野から9本ものメジャーファウルを奪う攻撃力は確かなものがあります。今後は、泳ぎながら短いパスをつないでいくテンポある水球を目指してほしいものです。また、シード校の明大中野の次戦(準々決勝)はスピード豊かな金沢工業との対戦となるだけに、どこまでシュートを確実に決められるかが勝負の分かれ目になるでしょう。

記録者

土居 陽治郎